

2016年4月1日、57歳の誕生日を迎えた つのびえ保育園は、また新たな1年の始まりを迎えました。保育園の下の電車道の桜並木も 愛らしいピンク色のトンネルとなって お祝いしてくれているようです。

今日は 朝からの大雨で、ついつい ため息混じりに 空を見上げてしまう大人達が多い中、子ども達は皆それぞれ、晴れやかな希望にキラキラと 瞳を輝かせながら新しい出会いを喜び、その笑顔は青空に輝くおひさまのように 眩しいほどでした。そんな皆の姿に、人の心は人の心によって 光を与えられ温もりに満たされるものなのだと、人と生き合う日々の幸いをしみじみと感じながら、晴れの日も雨の日もすべては 神様からの恵みであり、神様だけに為せる御業であることに感謝しつつこの子ども達の笑顔を通して、委ねる心の素直さをも改めて思わされた新年度の第1日でした。

全体礼拝で、新しいクラスや担任の先生を 拍手で歓迎し合った子ども達の姿はそれぞれ1つ大きくなった自分自身への喜びを 全身で実感している様子でした。その反面、微かな緊張や不安も入り混じった複雑な表情も 毎年の初日ならではの何とも言えない 微笑ましさを感じますが、実は そんな想いは子どもばかりではありません。私達職員も同様に「頑張ろう！」と「大丈夫かな…」の波が 交互に押し寄せながらのスタートです。欠点だらけの自分達なのに“先生”と呼ばれて良いのだろうか？と自問自答しては その重責に うずくまって下を向いてしまうことも度々です。けれども そんな時に心に思い浮かぶのは、人として生きられたイエス・キリストの姿であり、人々に語られた温かな御言葉です。キリストに倣う生き方をすること、キリストの人生そのものがキリスト教なのだと 私は思います。「わたしは、世の終わりまで いつもあなたがたと ともにいます。(マタイ28:20)」と 永遠にそばにいてくださることを約束し、どんな時も愛し合いなさいと、自ら十字架に掛かれて 真実の愛を証されたイエス・キリストの私達へのまなざしを想う時、人がそれぞれに命を与えられ 互いに生かされていることの意味とともに “こんな”私を、保育者として 子ども達の人生の礎に携わる大きな使命を 担い許されていることの意味を 深く考えさせられます。私達自身が まず『人として』いつでも一生懸命でありたいと思います。そして 私達は皆、神様に愛されていること、生きるとは その神様の愛に應えていくことなのだと、ひとりひとりの心に寄り添いながら、伝えていきたいと心から願っております。精一杯 ぶつかり合い向き合い 分かち合い 職員一同、皆で 祈りを合わせ、力を尽くして参りますので今年も どうぞよろしくお願い致します。

今日から始まる新しい道のりが 豊かに導かれ、幼な子達ひとりひとりのすべての 貴い命に 神様の愛と慈しみが注がれ、世界中の人々の心に 平和と希望があふれ続けますように 心からお祈りいたします。 (石田 記)

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。(詩篇37:5)」